

# 第 5 回厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議

## (2)計画の運用について

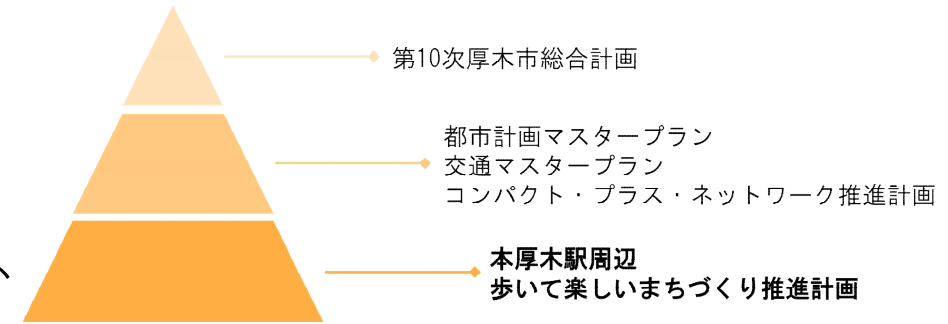
< 論点 >

1. 計画の実効性を確保するための方法について

# 1 計画運用の考え方

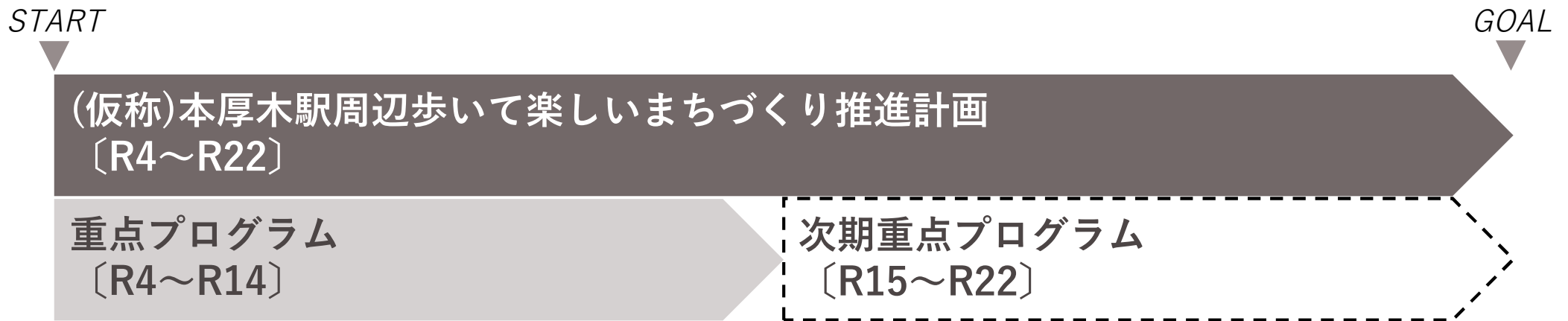
## 計画の目標年次

- ✓ 上位計画である都市計画マスタープラン、交通マスタープラン等の取組みと整合性を図りながら、本厚木駅周辺のまちづくりを推進するため、これらと同様に令和22年を目標年次とする。



## 重点プログラムの目標年次

- ✓ 今後10年間で確実に実行するべき事業を重点プログラムに位置付けるため、重点抽出しているため、目標年次は令和14年度とする。

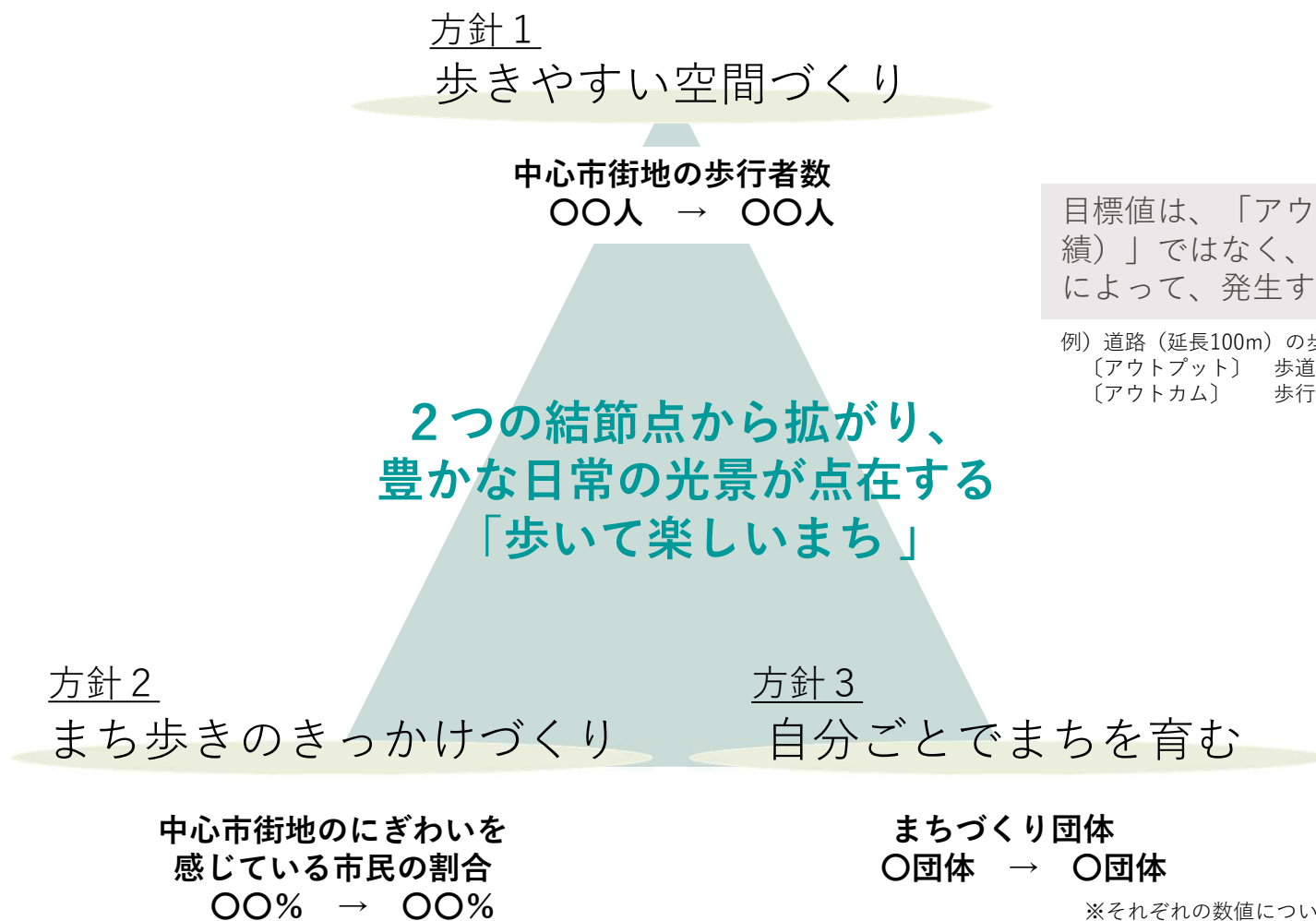


⇒ 計画の実効性を確保するためには、まちづくりに関わる人達がまちづくりの進捗を客観的に把握できる仕組みが必要である。

## 2 目標値（案）

まちづくりの進捗を客観的に評価し、関係者で共有するため、重点プログラムを中心とした施策の実施で達成を目指す目標値を、方針ごとに定める。

重点プログラムは、今後10年間で確実に実行するべき事業を抽出しているため、目標年次は令和14年度とする。



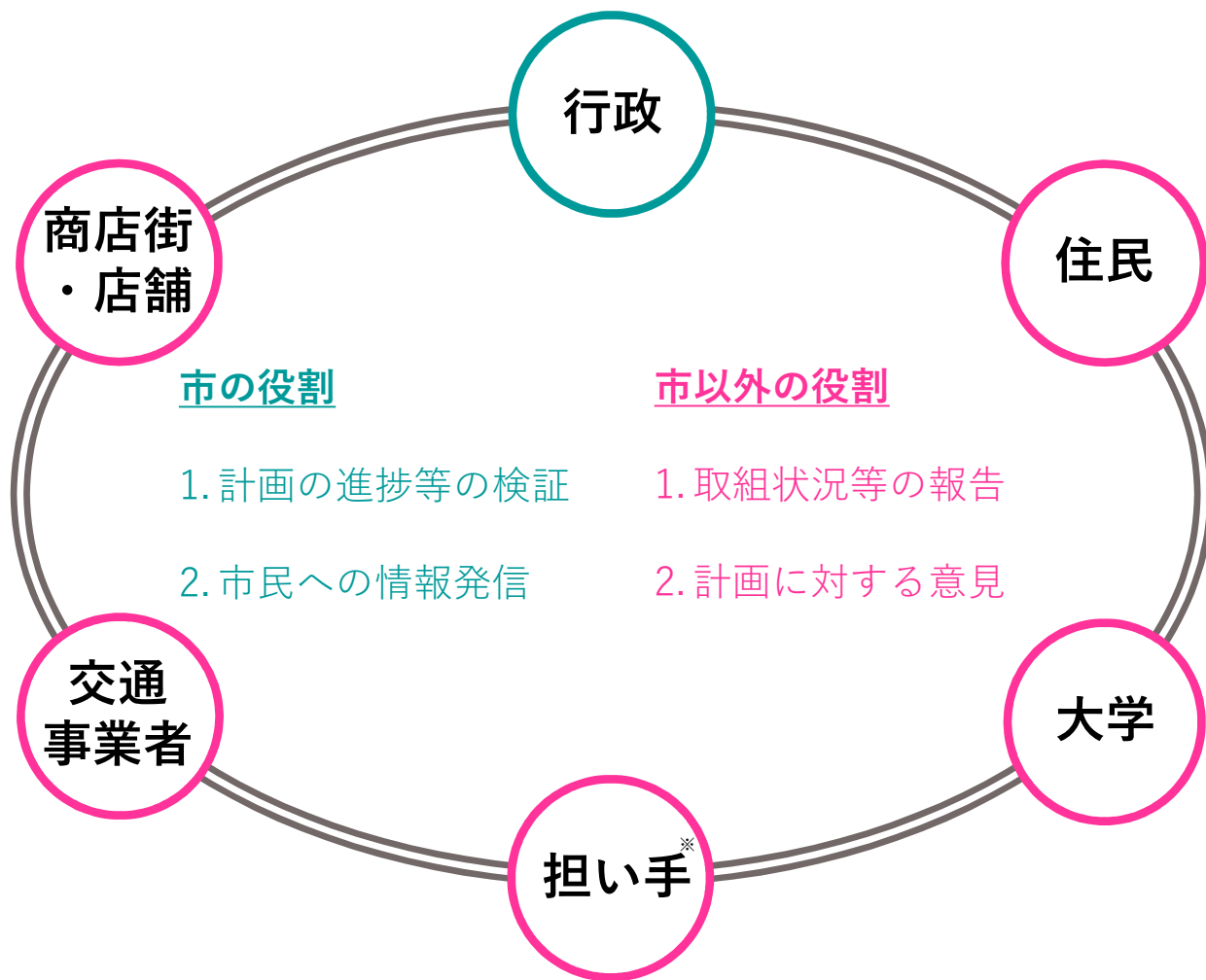
目標値は、「アウトプット指標（取組の実績）」ではなく、「アウトカム指標（取組によって、発生する効果）」とする。

例) 道路（延長100m）の歩道を広げる事業を実施した場合  
〔アウトプット〕 歩道を100m広げた。  
〔アウトカム〕 歩行者の増加、沿道の売上増加等

※それぞれの数値については、今後検討する。

### 3 評価体制（案）

市が計画の進捗等を検証し、地域の関係者や学識経験者等と共に、必要な計画の見直し（重点プログラム、目標値の再設定等）などを行う。

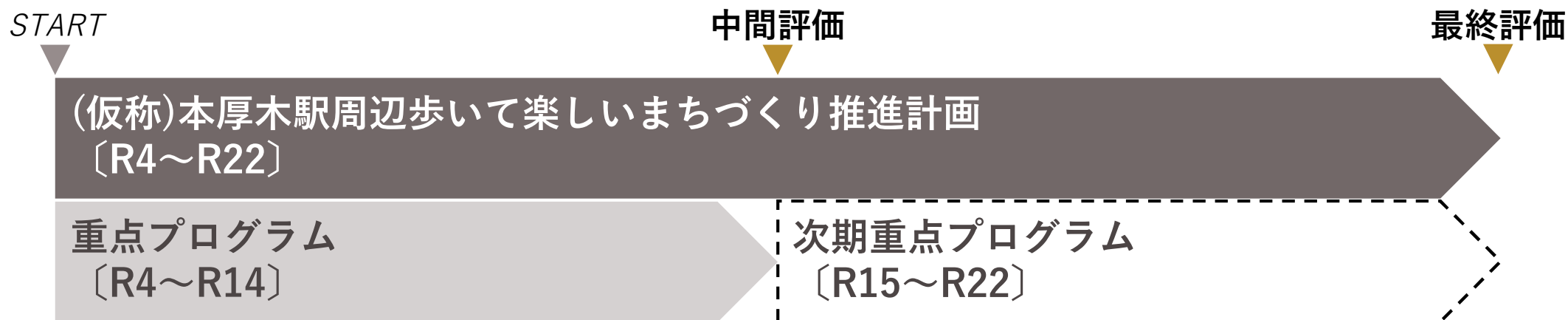


#### 【期待される効果】

1. 目指すまちの姿の実現
2. 新たな市民参加の促進

※ほこまちチャレンジinあつぎの参加者等を想定

## 4 評価のタイミング（案）



### 中間評価

- ✓ 令和14年度に、社会状況の変化や重点プログラムの進捗、目標値の達成状況等を検証し、必要に応じて計画を見直したり、次期重点プログラムを定める。

### 最終評価

- ✓ 令和22年度に、計画全体の進捗や目標値の達成状況等を検証し、新たな計画策定等に活用する。